

令和7年度 第1回 碧南市介護保険運営協議会会議録

1 日時

令和7年7月24日（木） 午後1時30分～午後2時30分

2 場所

碧南市役所 2階 会議室1

3 出席者

(1) 委員

三島博、小田直樹、大田康博、堀尾静、小林正人、岡部奈菜、沢井智美、齋藤健、
神谷葉子、藤田敏江、中川英治、禰冨田悦子、榊原勝博、高松好美、石川尚子、
原敬子、井上卓、小林清彦、安藤慎悟（計19名）

(2) 事務局職員

福祉部長 伊藤正博、高齢介護課長 小林圭介、健康課長 石川麻子
高齢介護課課長補佐 伊藤博之
高齢介護課地域支援係長 羽佐田美和子
高齢介護課介護保険係長 藤浦仁美
健康課成人保険係長 若林美代子
高齢介護課介護保険係主査 加藤徹
健康課
（計8名）

4 傍聴者

1名

5 議題

(1) 令和6年度における高齢者ほっとプランの進捗状況について

ア 高齢者及び介護保険事業所数の状況について

（資料1 P1～P3）

イ 高齢者ほっとプランの計画の取組状況について

（資料1 P4～P13）

ウ 介護保険給付費等の実績及び高齢者福祉事業等の決算状況について

（資料1 P14～P18）

(2) 健康とくらしの調査実施（案）について（資料2）

6 議事録

【事務局】：開会のあいさつ

【会長】：あいさつ

【事務局】：議題(1)の説明 資料1

(1) 令和6年度における高齢者ほっとプランの進捗状況について

ア 高齢者及び介護保険事業所数の状況について（資料1 P1～P3）

【各委員】意見等なし。

イ 高齢者ほっとプランの計画の取組状況について（資料1 P4～P13）

【A委員】

- ・資料1（6頁、(2)高齢者の活躍の場の創出）の老人クラブの説明の中で、老人クラブの増加努力目標を2パーセントに設定とあったが、どのようなものか。

【事務局】

- ・老人クラブには27の「地域の会」があります。老人クラブでは、この「地域の会」ごとの会員数を2%増加させる目標を持っています。目標を達成した「地域の会」を総会において優良クラブとして表彰しています。

【A委員】

- ・資料1（4、5頁）について。実績値の多くが延べ人数になっている。⑤筋トレルーム60運営事業については登録者数と延べ人数が載っている。3か所の登録者を足すとおよそ4,000人程度。碧南市の高齢者人口が約17,000人なので、それなりの割合の人が登録していると思う。この登録者数を今後100パーセントに増やしていくような目標は持っているか。

【事務局】

- ・筋トレルームの登録者数については具体的な数値目標を持ってはいませんが、より多くの方に使っていただき、健康増進、介護予防に役立てていただきたいと考えています。

【A委員】

- ・この事業は実績値や登録者数が他の施策に比べて多いので注目した。もう一つ①高齢者入浴サービスについては、延べ人数のみの報告となっているが、高齢者の何分の一が使用しているなどの数値はあるか。

【事務局】

- ・入浴券は5,000人ぐらいの方に交付しています。おおよそ高齢者の3分の1ぐらいの方が利用しています。

【A委員】

- ・この2つの施策はかなり利用者数が多いので、効果について注目して評価していくとよいと思う。

【B委員】

- ・いろいろな取り組みをしているのは結構なことだが、それがどのような効果につながっているのかを評価することが大切だと思う。筋トレルーム60運営事業について、要介護認定をされている人、されていない人についての利用状況を把握してもらうと筋トレの効果があつた等、効果が見えてくると思う。
- ・高齢者入浴サービスの利用実績が25パーセント減ということだが、入浴サービスを活用できなかったことで、高齢者にどのような影響が出ているか把握していれば教えてほしい。

【事務局】

- ・筋トレルーム60登録者の要介護度認定の有無については、現状把握していませんが、今後検討していきたいと考えています。

【事務局】

- ・高齢者入浴サービスについては、あおいパークが閉まっていたことが影響し実績値が落ち込んでいます。効果については、外出支援や社会参加の促進につながればと考えて行っています。

【B委員】

- ・高齢者入浴サービスは確かに外出支援につながる部分もあると思うが、厳しい財政状況の中で多額の費用をかけてまで行う必要があるのか、費用対効果を考えていかなければならないと考えている。
- ・資料1（11頁）養護老人ホームの措置者数について。「措置控え」（経済的な理由や環境上の理由で福祉的な支援が必要な高齢者に対し、市区町村が養護老人ホームへの入所措置を行わない状況）が行われていないか気になるが、入所措置の基準等について教えてほしい。

【事務局】

- ・養護老人ホームの入所措置については、経済的な理由であったり、身寄りのない方が対象であったりすることから個別に十分な聞き取りを行い、慎重に取り扱っています。本市において措置控えはしておりません。

【C委員】

- ・資料1（8頁）はなしょうぶネットワークの運用について。これは、利用者の状況を登録事業所が共有するものだが、昨年度、市高齢介護課地域支援係と碧南市介護サービス機関連絡協議会とで災害時の情報共有ツールとして活用する訓練を行った。具体的には大雨時の開閉所の判断に資するために、事業所周辺の冠水状況等を共有する訓練を行った。訓練に参加した事業所からは情報共有にとっても役立つものだと評価をいただいている。
- ・碧南市介護サービス機関連絡協議会は市内介護事業所の9割以上が加入しているのだが、はなしょうぶネットワークの登録事業所割合は54パーセントとある。これはどのような数値か。

【事務局】

- ・はなしょうぶネットワークについては、医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護サービス事業所に登録をお願いしています。これはその平均値を表しています。

【C委員】

- ・資料1(11頁)①避難行動要支援者名簿等作成事業の個別避難計画について。これは災害対策基本法で作成が義務づけられている。個人で作成するには内容が難しい。碧南市においては高齢介護課が中心となり作成しており、民生委員や碧南市介護サービス機関連絡協議会も協力している。3,216人という実績が上がっているが、これは他市町村と比較してどうか。

【事務局】

- ・まずはご協力をいただいている居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、民生委員の皆様がこの場を借りて御礼申し上げたい。
- ・作成件数は愛知県内では名古屋市、安城市に次ぐ第3位の実績となっています。作成率のパーセンテージは県下第10位です。市の中では第6位。近隣6市の中では安城市に次いで第2位となっています。

【C委員】

- ・個別避難計画は災害時の最後の砦と言われている。災害時に誰が支援するのか、どの道を使って避難するのか等具体的なものとなっている。計画を作って終わりではなく、今後、計画の更新についても対象者をサポートしてもらいたい。

ウ 介護保険給付費等の実績及び高齢者福祉事業等の決算状況について
(資料1 P14～P18)

【各委員】 意見等なし。

【事務局】：議題(2)の説明 資料2

(2) 健康とくらしの調査実施(案)について(資料2)

【A委員】

- ・独自項目について。前回、筋トレルーム60と高齢者入浴サービスのことについて設問を設けていたと思うが、今回も引き続き設ける予定があるか。

【事務局】

- ・踏襲する方向で今後検討していきます。

【A委員】

- ・利用人数が多い事業については、せっかくの機会なので事業効果を図るためにも設問を設けた方がいいと思う。

【D委員】

- ・認知症基本法が施行され、認知症施策推進計画作成が市町村の努力義務になっている。計画は認知症当事者やご家族の意見を反映したものにする必要があるが、どのような反映の仕組みを考えているか。

【事務局】

- ・要介護度認定者や事業所を対象にしたアンケートを令和8年2月に予定しています。今後内容を検討していき、12月に開催する2回目の本協議会の中で具体案をお示しする予定です。

【D委員】

- ・認知症当事者やそのご家族の回答であるということがわかるようになっているのか。

【事務局】

- ・今後検討していきます。

【B委員】

- ・調査は紙媒体で行うのか。

【事務局】

- ・紙媒体で行う予定です。

【B 委員】

- ・昨今、紙媒体での調査においても 2 次元コードを印刷するなどして回答しやすいものになっている。いろいろな方法を駆使して回答率を上げていってほしい。

議題終了

【事務局】:「3 その他」の説明

- ・次回は令和 7 年 1 2 月 1 7 日（水）、午後 1 時 3 0 分から今回と同じ会議室 1 での開催を予定。

【事務局】 あいさつ

終了